

地方学術会議委員会（第25期・第1回）議事要旨

1. 日時：令和3年2月15日（月）13：00～14：15

2. 場所：（オンライン遠隔会議）

3. 出席者：

出席委員：梶田隆章委員、望月眞弓委員、石塚真由美委員、佐藤嘉倫委員、
小山田耕二委員、相田美砂子委員、玉田薫委員、岸村顕広委員

4. 配布資料：

- ・資料1 地方学術会議委員会構成員名簿
- ・資料2 地方学術会議委員会運営要綱（令和2年11月26日幹事会決定）
- ・資料3 第25期委員会への前副会長（前委員長）申し送り事項
- ・資料4 地方学術会議の今後の進め方について（令和2年8月27日幹事会決定）
- ・資料5 地方学術会議の開催について（平成30年1月25日幹事会決定）
- ・資料6 第24期委員会議事要旨
- ・資料7 地方学術会議開催実績（一覧及び概要報告）

5. 議事概要

（1）役員の選任

互選により、望月委員が委員長に選任された。また、委員の同意を得て、望月委員長より、副委員長に石塚委員、幹事に岸村委員がそれぞれ指名された。

（2）当面の地方学術会議開催計画について

- ・新型コロナウイルス感染症の状況等を勘案し、第24期において内定していた開催予定時期を再検討した。九州・沖縄地区における地方学術会議の開催を同地区における地区会議主催行事との重複も考慮の上、2022年（令和4年）1月～3月頃に、また、これに伴い、東北地区における地方学術会議を同年（2022年）10月末から11月頃をめどに、同地区会議主催公開講演会の開催に併せ開催予定とすることとした。

これに伴い、原則年1回の開催とする地方学術会議の開催原則に抵触することとなるものの、過去にも同年2回の開催もあり、地方学術会議の早期一巡のため、容認されるのではないかとされた。

- ・当面、次回の九州地区における地方学術会議については、地方学術会議委員会や事務局等と緊密に連絡・連携しつつ、地区会議を主体とする体制下で具体的な開催時期や企画内容について検討することとした。
- ・開催予定時期の検討に際し、対面開催とリモートによる開催について議論があっ

た。リモートによる開催の利便や利点、また、対面によらざるを得ない企画内容があり得ること等を踏まえつつ、本件地方学術会議の開催が各地区を一巡するまでは、「地方学術会議の今後の進め方について」（資料４）の第２．７）に記載されているように、原則として対面での開催を目指し、状況によりオンラインによる開催も検討するという方針を確認した。

（３）地方学術会議の今後の進め方について

- ・各地区会議と地方学術会議の差異やその実施主体等について、第２４期において取りまとめた幹事会決定「地方学術会議の今後の進め方について」（資料４）で一定の整理を行ったことが紹介された後、委員間で議論があった。
主な意見として、
- ・地区会議は地区内の会員、連携会員相互の交流促進を目的とし、地方学術会議は、幹事会が代表する学術会議そのものが地方に出向き、幹事会と地区内会員・連携会員との懇談、地域の各分野のリーダーと意見交換等を通じて相互に理解を深め、もって科学の一層の振興や地方創生に資することが目的である。しかし、そうしたコンセプトを理解しつつも、実態上その差異を感得しにくいとする意見があった。
- ・地方学術会議と地区会議の違いについて内外に知らせる工夫が必要であるとする意見があった。それに関連して、これまでにHPに特設ページを設けてきており、また本年６月には「学術の動向」で地方学術会議の特集が組まれている。
- ・次回の地方学術会議実施まで相当期間が開くため、本委員会のみならず、地区会議と協働によるブレインストーミングを実施し、相互の活用や、地域活性化のための方策を含めた議論を深めてはどうか、との意見等があった。
- ・地区会議との意見交換に関し地区会議が７地区に分かれており、かつ各地区会議の所属会員も相当数に及ぶことから、各地区の代表等との間に絞って実施する案などが議論されたが、地区会議側とのコンセンサスも必要であることから、当面は、日本学術会議総会時に実施される地区会議代表幹事等による合同会合などに本件地方学術会議委員会としての意見などを伝達する機会を検討することとした。
- ・その他地方学術会議及び各地区会議の開催に関する予算の改善等について、議論が行われた。

（４）その他

- ・委員間でメールアドレスを共有することについて合意された。
- ・本委員会の議事要旨については、事務局が原案を作成し、委員長の確認を経て各委員にメールにより配信・意見照会を行い、提出された意見に基づく修正を行ったものを最終的に委員長一任により確定することをもって委員会の決定とすることで可とすることが委員間で合意された。
- ・次回の日程については今後調整することとなった。

以 上